



dot.b *Interview*

INTENSIVE COURSE

医療データ人材育成拠点形成事業ビジネス特化型インテンシブコース

日本のデータサイエンスを牽引する
リーダーを育てるdot.bの魅力と可能性

日本のデータサイエンスを牽引する リーダーを育てるdot.bの魅力と可能性について 主要運営メンバーに話を聞きました。



詳しくはこちら



京都大学医学部附属病院
医療情報企画部

教授 黒田 知宏

座学だけでは得られない体験をdot.bで。

日本の医療の発展と健康長寿時代の実現につながる新しい社会のしくみづくりを、医療データを利活用して積極的に主導できる人材の育成を目的としています。



京都大学医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学

教授 中山 健夫

社会健康医学にとっても身近なデータサイエンス。

dot.bでは医療データを正しく扱うことを学びますが、社会健康医学の知識は、dot.bで医療データを扱う方法や基本として大いに役立つでしょう。



京都大学国際高等教育院附属
データ科学イノベーション
教育研究センター

教授 田村 寛

データサイエンスのサイクルを体感して欲しい。

dot.bでは、病院を舞台にして、実際の社会からデータを取ってきて、集積し、貯まったデータを分析して、それを社会に還す、というサイクルをまんべんなく体感できるのが大きな魅力だと考えています。



京都大学医学部附属病院
病床運営管理部

病院教授 加藤 源太

現場のリアルを知る機会として活用を。

データと向き合う際に、現場のリアルを知ることが生み出される医療データを深く理解することにつながり、大きなプラスを感じていただけたらと思います。



京都大学国際高等教育院附属
データ科学イノベーション
教育研究センター

特定講師 植嶋 大晃

視野を広げ、データを見る目を養う場に。

医療データの講義の際に、ケアの観点をうまく伝えられるように心がけています。また、データや結果を見るときに、絡めては見誤る因果が意外にあります。そうした見る目を、dot.bで養って欲しいと思います。

